ムラサキシジミは♂♀ともに翅表に明るい青紫色の鱗粉を配し、太陽光線を受けながら木々の葉っぱ上で思いっきりその美しい色をみせてくれる、暖地性のシジミチョウである。現在知られる北限の採集記録は宮城県で、南は沖縄、八重山諸島でもみられる。♂は紫色が羽全体に均一に広がり、♀では前翅で明らかに♂とは異なるくびれ部分があって色調も明るい青紫であることから雌雄の判別は容易。幼虫は通常、アラカシ、アカガシ、シラカシ、イチイガシなどのカシの仲間を、好んでヒコ生えなどの新芽を食べ、葉っぱを筒状に巻き込んだ目に付きやすい巣をつくってその中に潜むので見つけるのは簡単である。カシ類の新芽が少なくなる夏季にはコナラやクヌギ、ミズナラなども食べるとされるが、養父市ハチ高原や加古川市平荘町の岩山地帯に発生する個体は特に大型で、幼虫時代の食性と関係があると考えられる（高知市五台山産との大きさの違いがわかるように標本写真を添付）。幼虫はわらじに似た形態で、ムラサキツバメと同じく幼虫のまわりにはアリがまとわりついている。幼虫が蜜腺をもっていてそこから甘い蜜を分泌し、それをアリがなめにくるからで、シジミチョウの仲間にはアリと完全に共生するものもいて、蜜で誘惑してアリに巣まで運んでもらい、密かにアリの卵や幼虫を食って育つ、まさに肉食のチョウ：ゴマシジミという絶滅危惧種もいる。ムラサキシジミはあくまでカシ類の葉っぱを食べて育ち、幼虫が蜜を出してアリがそれをなめることがムラサキシジミにとっていったいどういう意味があるのか、実際にアリの存在なしで正常に成育することは卵からの飼育でいくらでも観察できるわけで、蜜を分泌するという習性はまるで意味のないことのように思えてしまう。野外では落葉のあいだにもぐりこんで蛹になるらしく、筆者はまだ自然界で蛹を見たことがないが、飼育中に蛹に触れるとムラサキツバメでも同様に「さわらないで」といいたいのか「チッチッチッ」と音をだす習性はよく知られている。なぜこのような音を出すのかについて詳細はわかっていない。

May 30, 1971 高知市五台山 ムラサキシジミ♂

June 5, 2008 加古川市志方町 ムラサキシジミ♀

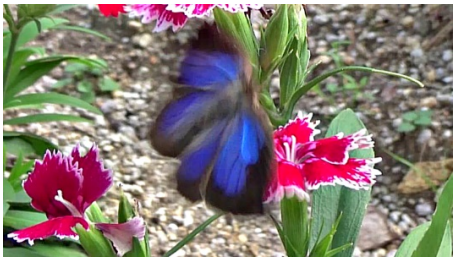
ムラサキシジミもチョウのままで越冬するが、ムラサキツバメのような集団をつくることはなく、例えばビワの葉っぱのあいだで 1 頭きりで寂しく冬をしのぐ姿の観察例などがある。このチョウの裏面はムラサキツバメと同じく灰褐色に斑点模様があって、羽を閉じてとまっている姿は枯葉にも似ており、その居場所によってはすぐれた擬態効果を発揮する。

高砂市松波町では自動車道路沿いに植栽されたカシ類の街路樹がヒコ生えを出している時期に、どこから飛来したのかムラサキシジミの♀がその若葉に産卵しようとしている場面に出くわしたことがあるが、そのときは結局産卵することなく飛び去ってしまった。普通は、直射日光があたることの少ない林縁のカシ類を好む傾向があり、松波町の現在の街路樹環境はムラサキシジミには不適当と判断されたのかと思ったのだが、2009 年 3 月 18 日に越冬後のきれいな♀、翌日には♂が全く同じ人家垣根で日向ぼっこをする場面に出会え、こんなにきれいなチョウが身近にいてくれるとうれしくなる。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.

Oct. 7, 2018　テニスの合間にチョウタイム Ser.1

色とりどりのナデシコの花が植栽されていて、チャバネセセリがよく目立つ花にとまるのを撮影していると、褐色の大きめのチョウが忙しい飛翔で現れる。ムラサキシジミだ。この公園の垣根を構成しているウバメガシで発生した個体だが、例年観察できる個体数はとても少ない。ナデ



シコの白花、次いで赤花で夢中に吸蜜した後、いくつかの花を転飛するのについて回る。飛び立つ瞬間にわずかに翅表の紫が輝くがその場では雌雄の判別ができない。花の蜜を堪能したのか、筆者のストーカー行為を嫌っての一時休憩なのか、ウバメガシからクスノキへと垣根が入れ変わったところに移動して、間歇的な開翅動作を繰り返す。翅表を開いて見せてくれるこの時点で初めて♀だとわかるが、この時期の♀はとても美しい。

Dec. 1, 2018　師走に入っても飛ぶチョウ

12 月に入った高砂公園で、ウバメガシの垣根にムラサキシジミを探すと、いつもの日当たりがいい場所でチラリと紫を輝かせた個体が飛ぶ。見失わないように小さな個体を追うと、色調からムラサキシジミの♂だと思うが、とまったあと少しも開翅してくれない。とにかく 12 月に入ってもまだ飛び遊ぶ個体がいたという記録だけはとっておく。テニスを終えた後、再びムラサキシジミのいる場所へと向かい、ウバメガシをゆすって飛び出す個体の動きを追う。決して邪魔にならないように近づいているのに、ストーカー的行動を嫌ってか、ヒバの樹の高い位置へと飛び移ってしまう。少し居場所を変えたりしたあと、あいかわらず高い位置でようやく開翅姿勢をとるが、撮影ができない角度。仕方なく、枝をゆすって飛び立ってもらうとウバメガシの新芽部分に落ち着くけれど、低い位置ではまだ開翅してくれない。そこへ別の個体が現れて、まもなく開翅し始める。ムラサキ色調が濃い♂だ。太陽光の反射

具合でその美しさが変わる様子をビデオ記録していると、いつのまにか目の高さの葉上へと移っていた最初の個体がやっと開翅してくれている。こちらは色調がうすい♀だ。両個体を撮りこむ画像の記録もとったあと、♀の方がまるで越冬場所を探すかのような挙動をみせるので追ってみ

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.

ると、枯れ葉が重なる場所へと潜り込んでいる。この場所を越冬場所と決めたと思われ、裏面の色調が保護色となるみごとな選択となっている。

Dec. 15, 2018　越冬準備に入ったムラサキシジミ

さすがに 12 月も半ばを過ぎて日中の気温が低くなると、高砂公園のウバメガシ垣根まわりで飛ぶチョウの姿はなく、ムラサキシジミが越冬態勢に入ったと思われる、孤立したウバメガシの樹を調べてみる。12 月 1 日の暖かい日中に、飛び遊んでいた

ムラサキシジミが枯れ葉のある部分へと潜り込んだことがあり、おそらくそのような場所に潜んでいるはずだと調べていくと、案の定、うまくカムフラージュ効果が発揮できる形で枯れ葉に静止するムラサキシジミが見つかる。蛾の幼虫が葉っぱを食ったあと、クモの巣を張り巡らしたように糸掛けをした枯れ葉の塊がいたるところにあるが、ムラサキシジミはそのような環境は避けているようで、網状の糸掛けがない枯れ葉に注目すると、新たな越冬個体がみつかる。今後、気温が高い日にはいくらか活動をするかもしれないが、しばらくこの 2 個体について観察を続けてみようと思う。

Dec. 21, 2018　小春日和

久しぶりに暖かくなった昼時、ムラサキシジミの様子をみに行ってみる。ウバメガシの 2 か所で越冬態勢を整えていた個体を調べると、1 個体は元の場所から少し位置を変えていてアンテナの存在からチョウだと判別できる。もう 1 個体はどこかと目を移すと、見事に目立つ位置で翅を

全開にして日向ぼっこをしている。部分的に葉っぱの影が映るのが残念だが、少し角度を変えて美しいムラサキの輝きを記録してみる。やがて体温が十分に上昇したのかいきなり飛び始め、高い位置で今度は葉陰が映らない開翅を見せてくれるので精一杯腕を伸ばして撮影し、これでよしと帰ろうとするそばのウバメガシ垣根まわりをムラサキシジミが飛ぶ。右後翅が少し破損していることから 3 個体目の出現だとわかるが、少し日向ぼっこをしてから、このあと越冬する場所にするのか、枯れ葉の影部分へと潜り込んで動かなくなる。継続観察のために、目印として落ちていたハトの翅を垣根の根元に置いてから撤収。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.

Dec. 3, 2023　ムラサキシジミで新知見

今日もテニスの合間にウバメガシの垣根まわりで日向ぼっこ中のムラサキシジミの♂がつき合ってくれたが、12/1 から休眠中の個体は定位置で眠っている。やがて日向ぼっこをやめた♂が、それまで飛び遊んでいた場所とは明らかに離れた葉陰で休眠する♂を見つけて近づいていく。ムラサキツバメと違って集団越冬という習性のないムラサキシジミがいったい何を感知しての接近なのか、不思議な新知見。

Dec. 7, 2023　蝶能力を再確認

朝から強い風が吹き、ムラサキシジミはウバメガシ垣根のどこかで休眠しているだろうと確認に行く。意外にも垣根の上に置いた温度計は 15℃を少し超える状況で「今日も撮影に来てくれたね」とムラサキシジミの♂が飛び出てきて風に揺られながら開翅してくれる。次いで 2 頭目、3 頭目の♂が出てきて日向ぼっこ。♀の登場はないが、そのうち日向ぼっこをやめた個体が枯れ

葉の葉陰へと潜り込む。気温は 13℃を下回り、やがて太陽が厚い雲に隠れてしまう。というわけで今日もムラサキシジミの蝶能力を見せつけられて撤収。

Dec. 10, 2023　テニスの合間に蝶タイム

ここ数日では最も気温が高く、高砂公園のウバメガシ垣根ではムラサキシジミの♂と♀が頻度高く開翅姿勢をとってくれる。ときにはタイサンボクの葉上へと飛び移ったりするが、♀は以前

に寝床を決めていた垣根が好きなのか、いつの間にかそちらへと移っている。風が吹く位置で開翅した♂が風に揺られて開翅角度が 180 度以上になると翅表の紫の輝きがことさら美しく見える。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.

Dec. 14, 2023　ムラサキシジミの集団休眠を初観察

　高砂公園で例の休眠中のムラサキシジミの様子をみると、なんと 3 個体が寄り添うように休眠している。ムラサキツバメではよくみる光景で、Web 検索では本種の集団越冬の観察例があることを知るが、筆者自身は昆虫少年時代から約 70 年、ムラサキシジミでの集団休眠は初めて見る。

翅表が見えないため雌雄はわからないが、12/10 までの観察から 2 個体は♂だと思う。角度を変えた撮影記録では 1 個体の左後翅が傷んでいるが、ウバメガシ周りにはスズメ、メジロ、ヒヨドリなどが見られ、これらの野鳥に襲われたビークマークの可能性が考えられる。

　気温が上がった 11 時前に再度ムラサキシジミの周りが 16℃を超えていることを温度計持参で確認。その温度計を回収する段階で小枝に触れてムラサキシジミを驚かせ、3 個体ともに飛び出してしまう。そのときすべてが♂だとわかる。左後翅の破損個体はかなり大きく傷んでいるが、

無事な個体の開翅ではみごとに美しい輝きが見られる。さらにこの個体は太陽が雲に隠れると急ぎ葉陰へと潜り込むが、なんとその場所は最初に 3 個体で休眠していたその場所。何を目印に戻ったのかは不明のまま。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.